ISBN978-4-910672-77-9
C0037 ¥2000E
定価（本体2,000円＋税）
9784910672779
1920037020002

本書において教育本来の目的を忘れ、「テスト学力」「受験学力」に重点を置いた教育の誤りについては繰り返し指摘してきました。目先の結果だけを求める教育ではなく、明日の日本、未来の日本を考えた人材育成、人間教育をすべきと考えます。
—あとがきより

はしがき　第1章　危機に立つ「子ども」と「若者」1「不登校」と「いじめ」2スマホ依存の実態 3「スマホ」と「学力低下」4子どもの貧困　5「闇バイト」と「犯罪」6「若者」と「政治」おわりに 第2章　危機に立つ学力 1戦後の学力低下の実態と対策 2 2003年「PISAショック」と学力低下 3「全国学力・学習状況調査」による学力向上対策 4国家的「評価制度」（モニタリング・システム）の確立 5学校外の学習時間の減少 6子どもの学力低下の実態 7タブレット端末による学力の喪失 おわりに 第3章　二極化する学力 1「貧困」と「学力」2子どもの貧困対策 3貧困対策としての教育支援 4貧困家庭の学力低下 5「二極化する学力」の特徴と問題点 6「学力の二極化」対策 おわりに 第4章「学力テスト」の縮小、もしくは廃滅 1「学力テスト」の弊害 2戦後の学力テスト反対論者の主張 3テストは「競争」のためにあるのか？ 4現代学力テスト批判 5「テスト」をやめた学校 おわりに 第5章　小中学校にも「卒業論文」を 1卒業論文作成の目的と意味 2小学校で卒業論文を課す学校 3中学校で卒業論文を課す学校 4トピック・テーマの選び方　5 1年間以上かける作成期間 6「報告会」はどうするか おわりに あとがき

エコーする〈知〉　危機に立つ学校教育——小中学校にも卒業論文を——　北野秋男　CPCリブレ 23

CPCリブレ No.23

エコーする〈知〉

危機に立つ学校教育

—小中学校にも卒業論文を—

北野秋男

学校関係者必読 !!

子育て中のお父さん、お母さん、教員などの学校関係者さらには日本の将来に危機を感じる人たちに向けて、日本の子どもや若者の現状を分析し、問題を検証。児童生徒自身による課題や探求を促す卒業論文作成を提案します。

クロスカルチャー出版

2026年（令和8年）7月10日（金曜日）　週刊読書人

学術読物

【書評】週刊読書人　2026年7月10日号

北野　秋男著

危機に立つ学校教育

小中学校にも卒業論文を

本欄はA5版、全16ページのブックレットです。）

北野秋男教授は、全国の教育研究所や図書館をまわって関係資料を調査し、敗戦直後から現在までの学力テストの実態を明らかにした（北野秋男編『戦後学力テスト研究』）。次章以下でくわしく述べる。

著者の北野秋男教授は、これまで長年にわたって学力テストについて調査・研究を続け、多くの図書を刊行してきた。本書は、北野教授が長年の研究で培った識見をベースにしながらも、難しい専門用語は使わず、学生、教師、子育て中の親をはじめ一般の読者にも読みやすく書かれている。（ここで「学力テスト」とは、教師が作成する学校・学級単位のテストではない。国や都道府県などの公的機関が実施する大規模な学力調査を以下、『危機に立つ学校教育』の各章の内容を簡単に紹介しよう。

第1章で、現代の子どもや若者をとりまく危険な状況として、不登校、いじめ、スマホ依存、貧困や改治への無関心などを取り上げている。学校教育との関わりでは学力低下と子どもの貧困がとくに重要な課題なので、次章以下でくわしく述べる。

A5判・166頁・2200円
クロスカルチャー出版
978-4-910672-77-9
TEL. 03-5577-6707

危機を乗りこえる新たな「学び」

卒業論文が人々とのつながりを産む

高橋　寛人

第2章は「危機に立つ学力」である。2003年のPISAショックにより、日本の子どもの学力低下が問題となり、文部科学省は2007年から毎年「全国学力・学習状況調査」（全国学力テスト）を実施する。しかし、全国学力テストは新たな問題を生む。市町村別・学校別の点数が公表されるために、自治体・学校がランク付けされる。自治体は点数を上げるために自治体独自の学力テスト（地方学力テスト）を行い、学校はテストの事前対策に追われるようになった。

第3章は「二極化する学力」である。子どものいじめ、家庭の経済的条件に大きく左右される。子どもの貧困対策の推進・中学生も「卒業論文」を作成することを提案する。子どもが自ら問題を見つけ、調べ、考えて、自分の意見や主張をまとめる。子どもたちは世の中の様々の出来事や人々に関心を持ち、いろいろな意見や考え方を知る。この過程で、思考力、探究力、構想力、表現力などの様々な能力が総合的に育成される。学力テストにある競争が子どもの孤立を生むのに対し、卒業論文は子どもと人々のつながりをつくり、子どもの世界を広げるのである。

本書を読めば、子どもたちが直面している「学び」の危機の実態を知り、危機を乗りこえるための新たな「学び」のあり方を考えることができる。多くの方々に「読をおすすめしたい。（たかはし・ひろと＝石巻専修大学教授・教育学）

★きたの・あきお＝元日本大学教授・教育学。著書に『地方学力テストの歴史』など。一九五五年生。